

ご卒園 ご卒業 おめでとうございます



■千畑なかよし園



■仙南小学校



■美郷中学校



■六郷高校

3月1日から3月19日にかけて、町内の各認定こども園では卒園式が、各小学校と美郷中学校、六郷高校では卒業式が行われました。卒園児・卒業生たちは思い出がたくさん詰まった学び舎に感謝の気持ちを伝え、春から始まる新生活に向けて力強く第一歩を踏み出しました。



令和6年度の
卒園児・卒業生の数は
右記のとおりです

千畑なかよし園	25名
六郷わくわく園	37名
仙南すこやか園	36名

千畑小学校	37名
六郷小学校	48名
仙南小学校	48名

美郷中学校	138名
六郷高校	59名

ご長寿おめでとうございます

佐尾キエさんが満100歳に

3月1日に満100歳の誕生日を迎えられた佐尾キエさん(旭町)のもとを松田町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。

佐尾さんは16歳で上京し、病院の勤務の傍ら看護学校に通いました。その後、看護婦、保健婦、助産婦の資格を取得。六郷で助産院を開業し、60代半ばまで現役助産婦、70代ころまで保健婦としてご活躍されていたそうです。趣味は新聞や雑誌などの読書や園芸(花)とのことでした。長生きの秘訣は「生活のリズムを大切にすること」だそうです。これからお身体を大切に、元気で過ごしてください。



MISATOPICS

町の話



第7回「わらの文化」交流の集い

「わらの文化」交流の集いが、3月1日に美郷町住民活動センターで開催され、県内外から延べ154人が参加しました。

7回目となる今回は、郷土史研究家の小松和彦氏と千葉大学名誉教授の宮崎清氏が講演しました。小松氏は「村を守る不思議な神様～ショウキサマと仲間たち～」と題して講演し、人形道祖神は本県が日本一であり、外部からの参加を促し、素材や技術を共有していく必要性を話しました。宮崎氏は「藁の文化からの学び」と題して講演し、40年以上にも及ぶ研究の成果を通じて、若い世代とりわけ子どもたちへ、わら文化継承への必要性を訴えました。また、美郷わらの会の活動報告も行われました。

午後のワークショップでは、山形県真室川町で農業を営み、わら文化の情報発信を行っている工房ストロー主宰の高橋伸一氏が、編み南蛮やわらのしおりの作り方を指導しました。限られた時間の中、参加者は熱心にわら細工づくりに取り組みました。



▲日本航空株式会社との事業連携協定締結式での松田町長

もに再利用に向けた回収を行います。また、燃やせるごみに出していた廃食油についても、民間業者のご協力のもと、SAFという航空燃料に再利用するための

4月は年度始まりの月。さまざまな場所で新たなスタートを迎えているものと思います。子供たちは進学や進級によって新たなスタートですし、会社等にお勤めの方には新たな立場あるいは新たな環境でスタートを迎えているものと思います。

経験上の認識ですが、こうしたタイミングには「意気込み」が大切ではないかと思えます。言葉を変えて表現するならば「積極性」ということになりま

とで、意気込みや積極性を持って出だしに臨むことが肝要で、そうした姿勢が結果的に「終わり良ければ全てよし」という姿に繋がるのではないかと思うところで

さて令和7年度、美郷町でも意気込みを持ってスタートする新たな取り組みが多くあります。その一つが「ごみ回収関係」です。まずは過去2年間、試験実施したプラスチックごみの本格回収を始めます。プラスチックごみは燃やせるごみの範疇ですが、県内では初の国の認定を受けて、大仙市とともに再利用に向けた回収を行います。また、燃やせるごみに出していた廃食油についても、民間業者のご協力のもと、SAFという航空燃料に再利用するための

COLUMN WINDS

コラム

風

さまざまなスタート

美郷町長 松田知己

回収が始まります。東北初の日本航空プロジェクトへの参加となります。さらに、一時休止している古着・古布回収も7年度から再開します。こうした取り組みの目的は、ひとえに燃やせるごみの量を減らして、地球温暖化に影響ある二酸化炭素の排出量を少しでも減らすことです。地球温暖化への対応は「誰かがやってくれる」という意識ではなく、「誰もがやる」という意識での対応が必要です。そのための積極的な意識喚起として取り組みでまいりますので、みなさんの積極的なご協力、どうかお願いいたします。

雪が解けて久しぶりに目にする地面には、既に新たな緑の動きがあります。「始まるなあ」というため息に近い気持ちになります。こういふ時こそ「がんばるぞ！」という力強い意気込みが必要です。雑草との闘いのゴングが鳴りました(笑)。